

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	467500062
法人名	有限会社 ふれあい企画
事業所名	グループホーム みぞべ
訪問調査日	平成 20 年 3 月 10 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	467500062		
法人名	有限会社 ふれあい企画		
事業所名	グループホームみぞべ		
所在地	鹿児島県霧島市溝辺町崎森1891-15 (電話) 0995-58-9220		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年3月10日	評価確定日	平成20年4月23日

## 【情報提供票より】(20年2月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 8 人, 非常勤 12人, 常勤換算	18.7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000円(光熱費込)	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	- 円
または1日当たり		956 円		

### (4) 利用者の概要(2月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤医院・隼人温泉病院・おばた皮膚泌尿器科・鬼丸歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームみぞべは、周囲は畑が多く朝から夕方まで日差しが当たる場所に建てられている。その中で、利用者と職員がのんびりゆったりとした雰囲気でも過ごしている。二つのユニットは、それぞれの基本理念を掲げ、職員は「ゆっくり笑顔で」「やさしくあたたかく」対応してサービスのケアに努めている。昨年10月に管理者が代わり、これからのグループホームみぞべを職員と一緒にしてより良い事業所にして行こうという意気込みが感じられ楽しみである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価は、要改善点がなかったため評価の報告にとどまっている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者が職員に聞き取りを行い、ミーティングで話し合い作り上げた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月毎に開催され議事録も作成されている。公民館長・老人クラブ会長等の出席があり意見をもらっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族に面会時・電話等で情報提供し、意見や相談をもらっている。意見や相談は申し送りノートで職員は共有し、話し合いが必要なときはミーティングで話し合っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に2年ほど前に加入している。散歩や買い物の際に声かけをして、花や野菜の育て方などの助言をもらったりしている。自治会の積極的な活動はしていない。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2つのユニットがそれぞれの基本理念を掲げているが、地域密着型サービスとしての理念を作り上げてない。		地域密着型サービスとしての事業所独自の基本理念を作り上げることを望みます。
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目のとどくところ数箇所に理念を貼り、毎朝の申し送り時に唱和し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に2年ほど前に加入している。自治会の積極的な活動はしていない。		自治会を利用して行事の情報を集め、積極的に参加され、地元の人々との交流に努めることを望みます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員全員で取り組み作成している。昨年の外部評価は要改善点がなかったため、結果報告のみ行っている。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催され議事録も作成されている。公民館長・老人クラブ会長等の出席があり意見をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所から市町村担当者へ出かけていくことはあるが、市町村担当者が行き来することはやってない。		事業所の行事の中に、市町村の担当者の参加を頂き、一緒に質の向上に取り組むことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態は、毎月のホーム便りに個々の様子を書いて郵送したり、面会時や電話で報告している。金銭面は立替えの出納簿をもとに請求書を出して報告としている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はない。家族から面会時・電話等で情報提供し、意見や相談をもらい申し送りノートで職員は共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職時2週間から1ヶ月の引継ぎの時間を設け、利用者へのダメージを少なくする配慮をしている。職員の異動を家族へはホームだより・面会時に知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体のふれあい企画で毎月研修をしている。グループホームでは、必要時にミーティングを実施して勉強会をしている。		研修の年間計画を立てられ、外部研修の内容報告は、全職員が共有できる工夫を望みます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区の連絡協議会に管理者は、出席している。職員の同業者との交流は、できていない。		職員の交流する機会をつくり、勉強会・相互訪問を重ね、サービスの質の向上の取り組みに期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族の見学と利用者とのふれあいの時間を設けて、サービスの利用を開始している。入居後は、家族と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>畑作りを教えてもらいながら一緒に野菜を植えている。レクリエーションでハーモニカを演奏してもらったり、歌唱の場面作りをしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その時々を言葉で把握できるように、記録に残している。日々の行動を把握し、行動の促しができるように声かけし誘導している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者会議に家族も出席している。必要なときは主治医の意見を聞いて介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。対応できない変化が生じた場合は随時見直ししている。毎月、ケア会議を実施して問題点を話し合っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的にかかりつけ医の往診をしてもらっている。家族の要望があった場合、病院受診の送迎をしている。病院受診には、看護師が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望でかかりつけ医の変更をしている。ケアプランもかかりつけ医の意見をもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の場合は病院へ搬送している。重度化に伴う意思確認書は作成していない。		利用者の高齢化に伴い重度化した場合・終末期のあり方について、今後避けられない問題であるため、今後対応できるように方針を統一されることを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心についてミーティング時に勉強をしている。記録等の取り扱いも職員の統一がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	晩酌を希望する利用者に、希望に添って支援している。日常生活も趣味の時間・テレビ鑑賞・買い物など希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ四季素材を使用したり、嗜好・偏食を把握してメニューの変更や素材の変更をしている。調理・盛り付け・片付けなど利用者の力量にあわせて場面作りをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の週3回入浴日をきめて施行している。入浴を拒む方には、再三の言葉かけを行い入浴している。		職員の都合で入浴日を決めず、2ユニットで話し合い交互に入浴日を決め利用者が毎日入浴できる工夫を望みます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	車椅子の方にもクワを持って畑仕事をしてもらったり、ラッキョウ漬け・梅干作りなど利用者が楽しんで作っている。ハーモニカ・歌唱も発表の場面作りをして楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やドライブで出かけている。天気の良いときは敷地内に椅子を並べて2つのユニットと一緒に日光浴をかねて歌唱やおしゃべりをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけていない。外出傾向の方は、出て行かれたら職員が付き添い、落ち着いたらグループホームに誘導して帰ってくるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2階の入居者が車椅子の方が多いため、毎週非常階段の出口のところまで非難誘導の訓練をしている。地震を想定した訓練はしていない。		地震・台風を想定した訓練をされ、飲料水・非常食などの備蓄の準備を希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本体の栄養士がメニューを作るためグループホームではカロリーの把握をしていない。水分は一日1500ccの摂取を心がけ、足りないときは野菜果物ジュースで補給している。嚥下状態に合わせてミキサー食・とろみ食にしている。		事業所でも栄養バランスを知る上で、カロリーの把握に努めることを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に置の台があり冬場はコタツを出して利用者が過ごしている。季節感のある飾りつけを心がけている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には家族の写真が飾られ、仏壇や家具はそれぞれの家族が持ち込んでいる。ほとんどの居室が日当たりがよく、窓を開けて気持ちよく感じられる。		